手作りの甲冑で勇壮に
要害山三沢城跡山城祭

▼甲冑をまとい、掛声をあげる子どもたち

三沢地区の要害山三沢城を居城とし、二百八十余年にわたり中世奥出雲に時代を築いた三澤氏を偲ぶ「要害山三沢城跡山城祭」が五月二十九日、同城跡保存会（田部英年会長）が主催し、三沢公民館で行われました。

歴代城主の旗が飾られた会場では、三沢小学校児童二十九人や教職員らが手作りの甲冑をまとい、ほら貝や太鼓の音を響かせながら武者行列を披露しました。

続いて出陣の儀式である「三献の儀」を行い、大将にふんした三沢小学校の白石睦校長に、アワビ、クリ、コンブなどを家来役の児童が献上。「えい、えい、えい」「おー、おー、おー」と出陣の声で祭りの雰囲気を一層盛り上げ、約五十人の来場者からは大きな拍手が送られました。

同保存会の田部会長は「三澤氏の遺徳を偲びながら、末永く後世に伝えていきたい」と話し、城跡の保存と地区の活性化に決意を新たにしていました。

第七回奥出雲町小学校連合体育大会

▶懸命に走る子どもたち

五月十八日、第七回奥出雲町小学校連合体育大会が、三成公園陸上競技場で開催され、町内九つの小学校から、三年生以上の児童約四百七十人が参加しました。

競技は、トラック十五種目、フィールド四種目で熱戦が繰り広げられました。大会記録には一歩届きませんでしたが、多くの好記録が出ました。

この日は、気温が二十五度を超える五月晴れとなり、子どもたちは晴天の下、友達や保護者からの声援に応えるように懸命に競技を行いました。

商工会がチェンソーアート作品を寄贈

▼贈呈された作品の前で記念撮影

チェンソーだけで丸太を彫刻し作品を作る「チェンソーアート」。毎年、商工祭り（仁多会場）で行われる実演は、人気を博しています。

昨年、チェンソーアート作家・永井俊幸さんにより作成された作品が、町に寄贈され、その贈呈式が四月二十八日、三成公園で行われました。

今回寄贈された作品は、杉材から動物のカバを造形したもので、長さが約三メートル、足が固定されているため、子どもが五、六人乗ることができる大きさです。

また、材料の杉は、地元産で仁多郡森林組合から提供されたものです。

商工まつりでの実演は、今年も予定されており、今後、地元産木材のPRと利用促進につながっていくことが期待されます。

美しく豊かな景観形成を目指して
第一回奥出雲町景観計画策定委員会 開催

▼委員会の様子

平成二十二年十月に「景観行政団体」となった奥出雲町。奥出雲町らしい美しく豊かな景観形成に向け、具体的な指針となる景観計画を策定する「奥出雲町景観計画策定委員会」の第一回委員会が六月三日、役場仁多庁舎で行われました。

この委員会は、デザイン、地域経済、建設、産業文化、地域代表など各分野からの十三名の委員と三名のアドバイザーで構成されています。

はじめに井上町長から「町民も一緒になって地域を守るという営みの中で、どのような景観形成が必要か、活発な議論をしていただきたい」とあいさつがありました。

その後、会長・副会長の選出が行われ、会長に山陰中央新報社特別論説委員の前田幸二氏、副会長に町文化財保護専門委員の田部英年氏が就任されました。

前田会長から「景観は外部から見られて良くなっていく。そのためにどのように地域をPRするか、住民と互いに意見を交換しながら、計画を策定したい」とあいさつされ、議事に入りました。

委員会の後には、町内を視察し、計画策定への第一歩を踏み出しました。

今後は、策定委員会による審議のほか、タウンウォッチングやワークショップ、学習フォーラムなどを開催し、平成二十四年二月の計画策定、四月の計画施行を目指します。

	氏　名	役職・委員名等	分　野
会　長	前田幸二	山陰中央新報社特別論説委員	地域経済
副会長	田部英年	町文化財保護専門委員	郷土史
委　員	伊藤隆治	(株)モブ／和光大学准教授	環境芸術
〃	重森千青	(有)重森庭園設計研究室	設計デザイン
〃	小林照尚	造形作家	造形制作
〃	正岡さち	島根大学教育学部准教授	住居学
〃	作野広和	島根大学教育学部准教授	人文地理学・地域づくり
〃	大屋　誠	松江工業高等専門学校准教授	環境・建設工学
〃	原　裕美	雲南県土整備事務所仁多土木事業所長	建設土木
〃	木原　明	国選定保存技術保持者	玉鋼製造たたら吹き
〃	福田充雄	町文化財保護専門員	自然・歴史
〃	岩佐捷治	町自治会長会連合会会長	地域代表者
〃	田部隆義	町自治会長会連合会副会長	地域代表者
アドバイザー	藤山　浩	中山間地域研究センター研究企画監	地域研究
〃	前田幹徳	島根県景観政策室長	景観計画担当
〃	石原敏巳	島根県景観政策室	景観計画担当

図書環境の充実に寄与
株式会社ニッポーが町内小中学校に図書を寄贈

▲寄贈された図書（一部）

▲挨拶する阿合次長

株式会社ニッポー島根工場（下横田・内田博隆取締役工場長）が地域貢献活動の一環として町内の小中学校十三校に図書を寄贈し、その贈呈式が五月十一日、仁多郡小中学校長会の席上で行われました。

今回寄贈された図書は、絵本や辞典など百四十九冊（約三十万円相当）。

式では、同社島根工場の阿合勝美総務部次長が「現在の経済状況の中でも利益を上げられていることに感謝し、少しでも社会に還元したい」とあいさつし、これに対し仁多中学校の石田誠校長から「奥出雲町は図書環境が充実しているが、この度の図書寄贈により益々充実することを嬉しく思います」とお礼が述べられました。

このような活動は、子どもたちが本に親しむ環境を整え、近年懸念されている読書離れの抑制につながっていくことでしょう。